

2020/08/21(金) 18:30-

オンライン区民版子ども・子育て会議 by ZOOM

参加者数： 最多 69 人

開始の挨拶（松田）

子ども部の加賀谷部長からご挨拶

子ども育成推進課長、山本久美子氏)

（資料を共有）世田谷区の社会状況についての説明

全国的には少子化、世田谷区では増加

区の人口は核家族世代をふくめ、転入が転出を上回っている。

- 1) 年代別グラフ 増えたり減ったりもしているが、増えている。
- 2) 年次別出生率と特殊出生率の推移のグラフ 減少している。都の合計特殊出生率を下回っている。
- 3) 人口推計 横ばいで続いていたが、6才から11才の増加が顕著。令和2年1月人口実績と比較すると特に0-5才人口が少ない状況
- 4) 乳幼児の養育状況の推移 年々上昇。幼稚園は減っているが、保育関連は増えている。
- 5) 認可保育園申込み者の推移 増えている。10年で約1.7倍増加
- 6) 保育施設の定員数の推移 10年で2.1倍の増加
- 7) 保育待機児童数の推移 ワースト1位だったが、対策し今年になって0。希望する保育園に入園できない家庭はあり、保育ニーズとのミスマッチが生じている。1才児の定員が逼迫する施設あり。
- 8) 世田谷区の子ども施策 平成13年、23区で初めての子ども条例が基となっている。子ども子育て応援都市宣言を平成27年に行っている。地域住民の絆をより強くしながら参画をする街づくり
- 9) 子ども計画（第二期）後期計画
 - 9-1) 子どもの貧困の社会問題化、児童相談所を設置できるようになり、社会環境は大きく変わっている
令和2年度から6年度を計画期間とし、4月からスタート
 - 9-2) 10年後にめざすべき姿 「子どもがいきいきわくわく育つまち」 子どもの権利が守られている環境
 - 9-3) 基本コンセプト 子ども主体 → つなぐ・つながる/参加と協議/地域の子育て力の3つの視点で推進
 - 9-4) 4つの重点政策 緊急対応の着実な運用
子どもの命と権利を守り相対的に子どもがいきいきわくわく育つまち
 - <1>子どもが地域の中で自ら生きる力を育む
 - <2>妊娠期から地域で子育て家庭を支える
 - <3>基盤の整備と質の確保・向上
 - <4>緊急対応の着実な運用

上記4つの重点政策のそれぞれの施策を具体的に説明

最後に

- ・子どもが権利の主体、意見を尊重されること、最善の利益が保証されることが理念として明確化
- ・児童書開設により、総合的な児童相談行政を構築し、子どもの命と権利を守るセーフティネットの構築と共に、みんなで子どもを守るまちの実現を目指す
- ・予防型の子育て支援施策を展開、地域・地区における見守り・相談支援ネットワークの強化に取り組む
- ・子ども一人一人が権利の主体、未来の【希望】、

児童館の話は須田課長から紹介。

児童課長 須田健志氏)

児童館を中心とした地域におけるネットワーク。

子ども計画(第2期)の機会にこれまでの児童館のありかたを検討し、あり方検討委員会報告書をまとめた。令和元年度は児童健全育成機能、相談機能、居場所づくり、地区ネットワーク多様化の促進、未来の取組をまとめた。

1. 児童館を拠点とした地区の見守りのネットワークの強化

- 1) 地区における見守りなどのネットワークの推進
- 2) 児童館における相談・見守りなど支援スキームの構築

身近な地区における見守りのネットワークの強化と相談支援体制の再構築

2. 児童館の機能強化 「遊び」「相談支援」「地域資源開発」「ネットワーク支援」の機能の充実/運営は区が担う

- 1) 児童館における人材育成と支援力向上
- 2) 地域子育て支援コーディネーターや社協との連携による地域資源開発

松沢児童館でモデル事業を実施 →他の児童館にも拡大

世田谷区の児童館の特徴と機能のイメージ

<世田谷区の児童館の特色>

- ・まちづくりセンター28か所に再整備
- ・子育て支援館、中高生支援館を5地域に各1館ずつ整備
- ・妊娠期から18歳未満まで幅広い年代が利用
- ・地区に関わらず児童館を利用している子どもたちに対応した相談、見守りなどの仕組み

子ども・家庭課 増井課長から貧困対策の推進について説明。

子ども家庭課長 増井氏)

子どもの貧困の現状と対応について。

子どもの貧困対策の推進

1. 世田谷区における子どもの貧困

平成30年度に実態調査 小5、中2の子どもとその保護者を対象に実施 → 42.9%の回答

生活困難度により区における子どもの貧困を把握(低所得/生活の逼迫/経済的理由など3つの要素で生活困難度を把握)

経済的理由による子どもの体験、所有物の欠如など15項目で調査

<絶対的貧困と相対的貧困>

絶対的貧困→食料がないなど人間が生きるのに必要最低限な生活水準が満たされていない)

世田谷区では絶対的貧困はみられていない。日本での貧困は相対的貧困。ほとんどの人が当たり前に行うことができている。

経済的理由での体験や所有物の欠如

生活困難層とは

1) 低所得 2) 家計の逼迫 3) 子どもの体験や所有物の欠如の3要素からとらえている
一般層 (いずれの要素にも該当せず)、周辺層 (いずれか1つの要素に該当)、困窮層 (2つ以上の要素に該当)

周辺層+困窮層を生活困難層とする

小5、中2の調査 → 1割を超える子どもが生活困難層→12,000人が生活困難者と推定できる

2. 子どもの貧困対策計画

子ども計画と子どもの貧困対策計画の策定

子どもの貧困対策推進連絡会にて総合的に検討

子ども計画 (第2期) 後期計画に入れる

子どもの貧困対策計画の方向性

1) 一人親世帯のみならず、二人親世帯も含む生活活困難層を抱える家庭への支援 (子供、保護者)

2) 貧困の連鎖を断ち切る →すべての子どもが健やかに育成される環境の整備

支援・サービスの充実 (子どもへの直接的支援、保護者への支援) × 支援につながる仕組みの強化

地域のサービスにつながっていないところから当事者の視点にたった情報提供、支援者の気づきの制度の向上

子どもの貧困対策計画の内容 5つの柱

1) 教育の支援 (地域における学習支援の充実) 2) 生活の安定に資するための支援 (子供の居場所づくりの充実) 3) 保護者に対する職業生活安定を向上に資するための就労の支援

4) 経済的負担の軽減のための支援 5) 支援につながる仕組みづくり (支援者の気づきの向上)

子どもの現在及び将来が、その生まれ育った環境に左右されないよう、貧困の連鎖を断ち切ると同時に新たな貧困の連鎖を生まないよう取り組む

子ども・子育て会議の座長の森田先生から)

子ども・子育て会議はどういうものか、計画はどんなものか、世田谷区は計画をどう位置づけて子育て支援政策を動かしてきたか。

市民が語るのがどんなに大事かを実感している立場でもあるので、この区民版を大事にしてほしい。区の子育て会議は、世田谷区の価値観、文化、子育ての営みを作り上げていく場。一番大事なのはどんなふう子どもたちが育ってほしいのか、子育てをしたいのか、どんな子どもになってほしいのかを共有して、足りないものをつくりあげていくにはどうしたらいいか。コロナでフードパントリーで様々な問題を抱えた家庭や地域の人との連携に出会えた。行政だけがやろうとしてもできないし、取り組みもすぐには始められなかったかもしれない。世田谷区はとても広くて多くの人があるので絞り込むのが難しい。一つ一つの家庭に視点をあてられない。子育て会議の力を借りたりしながら、区と区民がどう協働して必要な子どもたちや地域づくり、子どもの育ちを配慮していくことができるか、つくりだしていきたい。

子ども計画の特徴は、子どもも子育て家庭も区民の一人、一員であることを常に考えて、子の人たちが主人公のまちづくりでなくてはいけない。主語は子どもであり、親であり、市民。支える行政でありたい。強い保護行政ができてきた世田谷区。それ以上支援型の楽しい、豊かな支援を行わなければいけない。新しい仕組みを皆さんとつくっていききたい。いろんなご意見をください。

保護が生きるのは支援があって生きる。世田谷区は必ず保護する。予防型で行える。若者までカバーしてい

くことを子ども計画は考えている。長期スパンで子どもや若者を育てていく。

児童相談課長 長谷川氏)

4月に梅ヶ丘に児童相談所無事開設。24時間の虐待通告ダイヤルも開設。児童相談所は児童福祉法に基づいている専門機関。子ども家庭支援センターとの一元的な運用を目指している。

区としての取り組み：権利を尊重した一時保護所の整備。子どもたちのプライバシーを守りつつ安心して暮らせるようにしている。

里親制度の推進、拡充：HP,SNSでの展開予定

想定外はコロナ 開設と同時

コロナでの外出自粛、学校、保育園の休業などでの通告はもともと右肩上がりの傾向があったが、3月、4月で急に増えたわけではなかった。学校や保育園が再開した6月以降に通告は増えた。今後もコロナの件も含め状況に合わせての対応をしていく

世田谷ボランティア協会 鈴木氏)

学校が3月に休業となり、4月に状況が悪化。実際の状況をつかむのも難しい。4月18日からせたがやNPO地域連携会議を週2回zoomで始めた。多様な様々な人の参加を呼びかける予定が個人のプライバシーの話もあり、メンバー固定、非公開で続けて情報共有をしてきた。先日3日間で共有する場を公開した。第一夜(子どもたちへの影響)、第二夜(弱い立場の人への影響)、第三夜(支援者への影響)、と実施。(YOUTUBEの限定公開あり)

北沢おせっかいクラブ 斉藤氏)

フードパントリーの活動紹介。プロジェクト的に松田さんとフードパントリーの活動を始めた。3か月で49回3300食実施。

様々な企業や事業者からの寄付もあった。

せたがや子育てネット 松田氏)

フードパントリーのチラシは非公開で世田谷区とのコラボで該当家庭へ配布。区民版をやってきたネットワークがあった実感。はじめるところにエネルギーがあったが、集まったピースをつなぐ。食の支援は対処療法と思っていたが、予防になり得る。子ども計画で包括支援センターになっていて位置付けてくれたからできたこと(個人情報)の壁をこえられた。【お互いさまの関係】を作りつつこの地域で子どもと暮らしていけそう、と思えた。

<グループタイム 20分>

■これからやっていきたいこと、つながるプロジェクトを有効活用。有事であることは正常時でもあったこと。改めて連携をつなげる。Zoomのおかげで70名近い参加があったので、今後も利用するといひ。

若者支援担当 望月氏)

平成25年にできた。若者計画ということで内包される形で策定。交流、社会経済情勢(二一トや引きこもり問題)、若者支援、施策に期待が深まっている。

■区民版のネットワークがあるからいろいろできた。あったからよかったという話もでた。新一年生は大変だという話も。今後はコロナのなかで、どう動いていったらいいか。企業は洗練されて必要なものだけが残

っているように、子どものまわりで何が大事か考えてわかっていくといい。この時期だからやれることを話せていけたらいい。

■アウトリーチをどうしているか？という話あり。今後話す内容としてアウトリーチ。
子どもの声を聞く。子ども主体をテーマに

■コロナのなか、子どもたちのごはんが減ったとか公共機関を使わないとか6月から通告が増えたのが気になった。今後は教育総合センター開設予定。乳幼児教育センターの機能もある。世田谷では乳幼児教育をどのようにやっていくか。家庭教育をどう充実させて、支援していくかも、区民版でもできたらいい。

■今の子どもたちがどんな遊びをしているのか。児童相談所と男女共同センターとの連携を聞いた。虐待とDVとの連携も必要。若年層の妊娠もあるのでもっと連携が必要。コロナの中、学校の先生も疲弊していると聞いている。小中学生が生き生きするためには先生も生き生きとしている必要がある。いざというときには作って来たネットワークが有効に活用できる

■子ども中心というのは他と同じ。連携して子どもを見ていかないといけない、個人個人をみていかないといけない。寄り添い型となると個人情報取得などが困難なところ。

<PR タイム>

9月17日 梅トピア 18:00-20:00 生活サポートNPO等協議会 木曜勉強会

世田谷助産師会 9月 一般のママ達向けにも オンラインで開催 定員100名で開催 参加費800円 (現在60名)

(株)がっこむ 山田氏 教育系IT 学区情報 全国の学区に子ども食堂がどれだけあるかわかる、ということで全国子ども食堂マップをリリース
今月末に全国版リリース予定